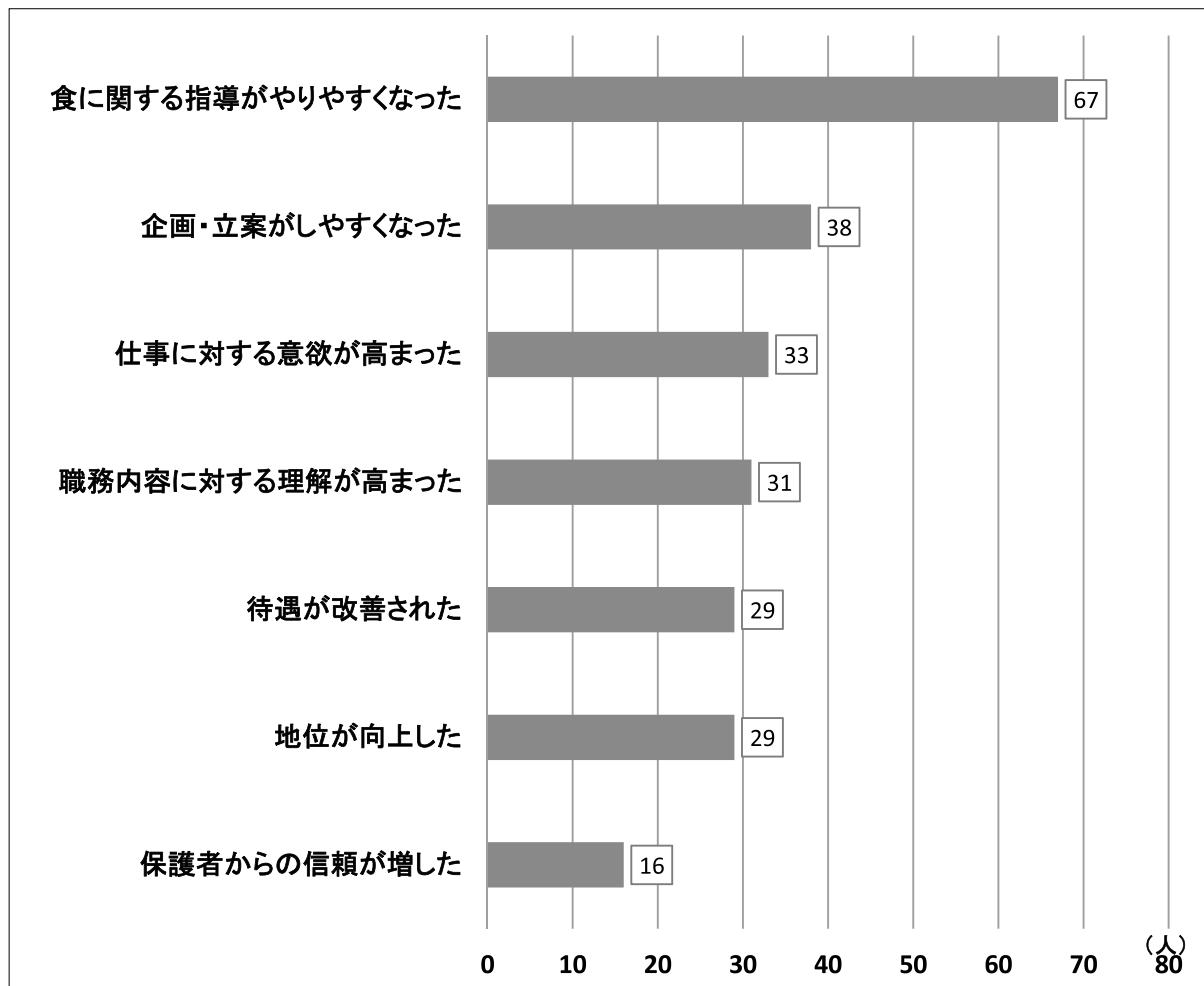


〈専門委員会栄養教職員部アンケート調査結果〉

I 栄養教諭としての活動について

1 学校栄養職員から栄養教諭となって良かったことは何ですか。(複数回答)

n = 78



考 察

「学校栄養職員から栄養教諭となって良かったこと」についての調査では、主に「食に関する指導がやりやすくなった」と感じている栄養教諭が多い。また、「仕事に対する意欲が高まった」「職務内容に対する理解が高まった」と感じている栄養教諭が昨年度より増加しており、活躍の場が広がっている様子がうかがえる。

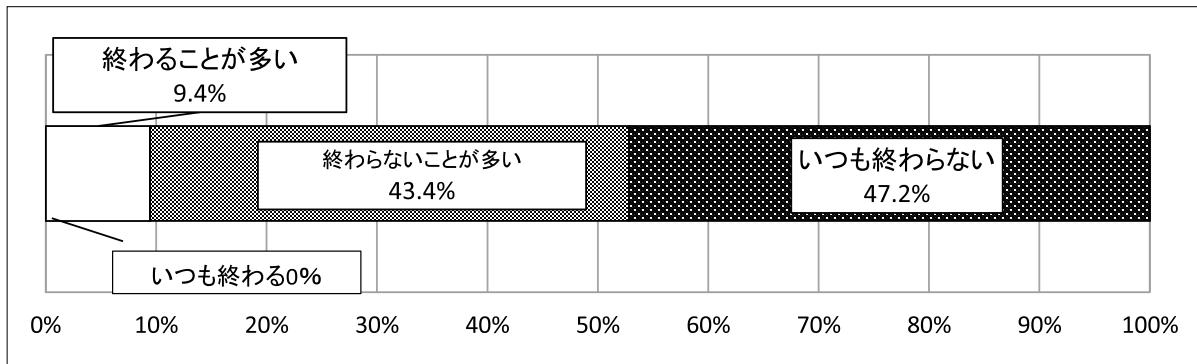
児童生徒の実態を把握し、毎日の学校給食を生きた教材として活用し、食に関する指導全体計画に基づいた教科・領域を横断した指導や、個に応じた指導を推進できることは、栄養教諭が配置されることの大きなメリットといえる。

また、学校給食における食物アレルギー対応や、肥満・瘦身・スポーツをする児童生徒への個別指導など高度な専門性へのニーズもますます増加している。栄養教諭としての使命感をもって、資質・能力の向上に努めることが求められる。

II 学校栄養職員の勤務状況について

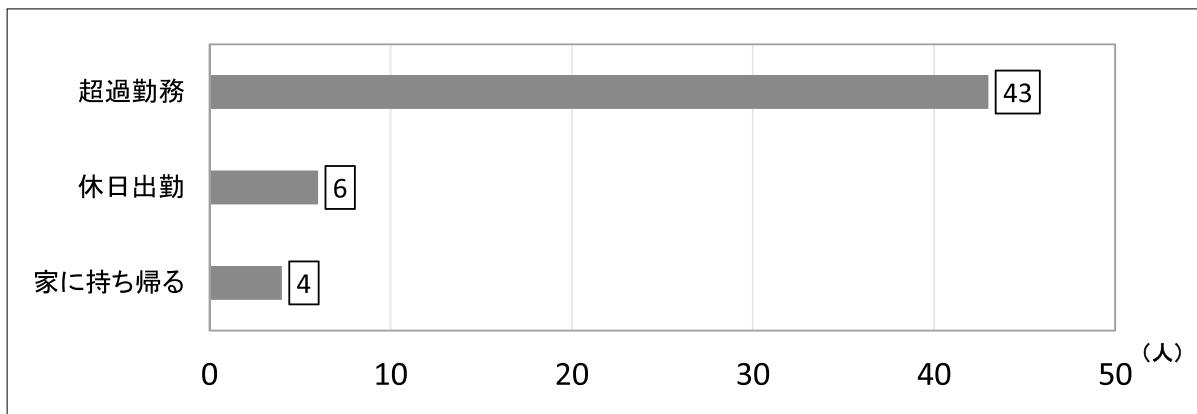
1 仕事は勤務時間内に終わりますか。

n = 53



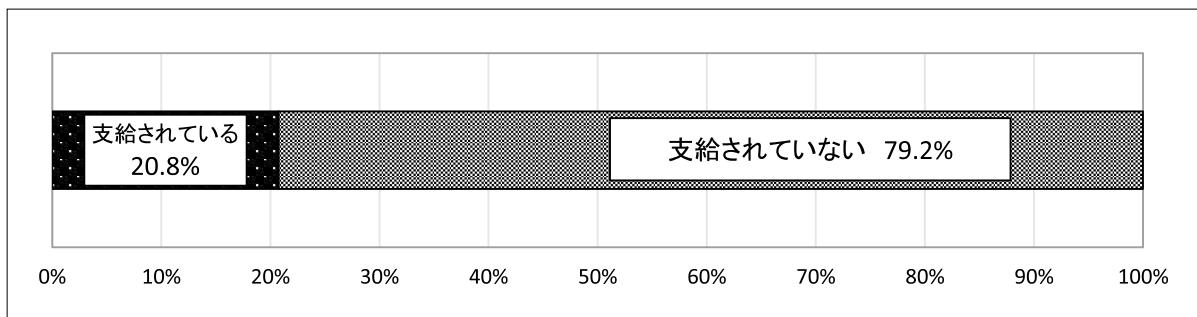
2 勤務時間に終わらない仕事はどうしていますか。

n = 53



3 超過勤務手当は実績どおりに支給されていますか。

n = 53



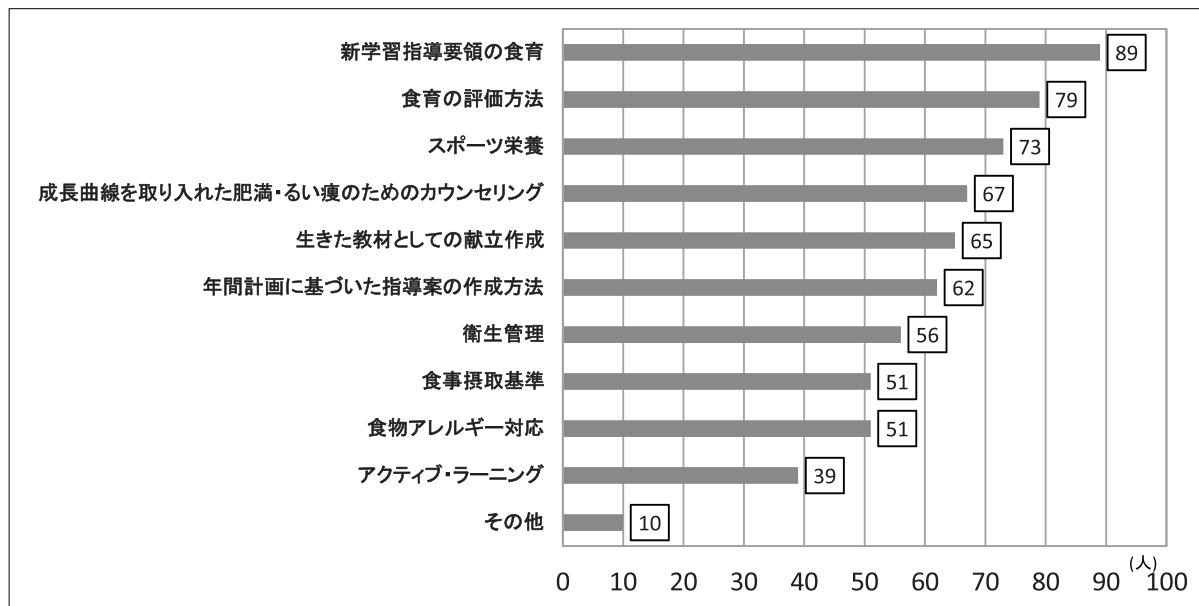
考 察

「学校栄養職員の勤務状況について」の調査では、勤務時間内に仕事が「いつも終わらない」「終わらないことが多い」と答えた人は、昨年度の80%より10.6ポイント増えて全体の90.6%であった。勤務が終わらない理由として、給食関係書類作成や食物アレルギー対応等の業務から、電話・来客対応の雑務まであげられ、確実に仕事量が増加しており、勤務時間内に終わらない仕事は時間外勤務や休日出勤で対応している。「超過勤務手当が実績どおりに支給されていない」と回答した割合は79.2%であり、超過勤務手当の支給については仕事量に見合うように改善する必要がある。

III 栄養教諭・学校栄養職員の研修希望について

1 どんな研修を希望しますか。(複数回答)

n = 133

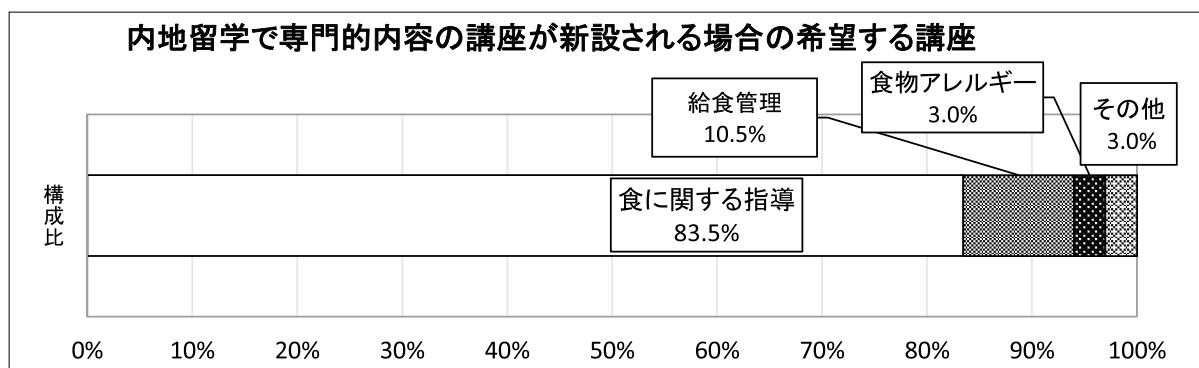


考 察

「新学習指導要領の食育」や「食育の評価方法」、「スポーツ栄養」についての研修を望む声が多い。ニーズに合わせたより高度な専門知識を習得し、食に関する指導の充実を図りたいと考えている会員が多いことがうかがえる。また、「成長曲線を取り入れた肥満・るい瘦のためのカウンセリング」や「食物アレルギー対応」など、個別指導に対応していくための知識や情報を得る機会、「生きた教材としての献立作成」や安全安心な給食を提供するための「衛生管理」など、学校給食の基本的な分野に関する研修を望む声も多い。総合教育センターの専門研修等で、これらの研修が行われることが望まれる。

2 内地留学について

n = 133



考 察

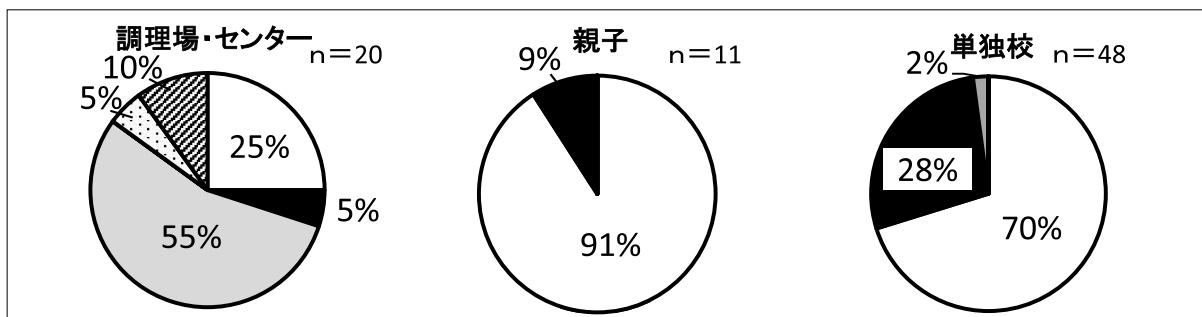
意識調査では派遣対象となる栄養教職員のうち、約半数が内地留学派遣を希望したいと答えている。しかし、研修項目の中に、栄養教諭の職務内容に特化した教科、領域が設置されているとは言いたい状況である。内地留学で学びたい講座として、「食に関する指導」を多く希望している。さらなる食育を推進、充実させるため、教科、領域に栄養教職員の職務内容にあった「食育」を設置し、より研修しやすい体制を整え、指導的立場の栄養教職員の育成が望まれている。内地留学で学ぶことにより、最新の教育情報を得て、それを広めることにより、県全体の食育のレベルの向上が期待できる。

IV 教職員評価制度についての考え方

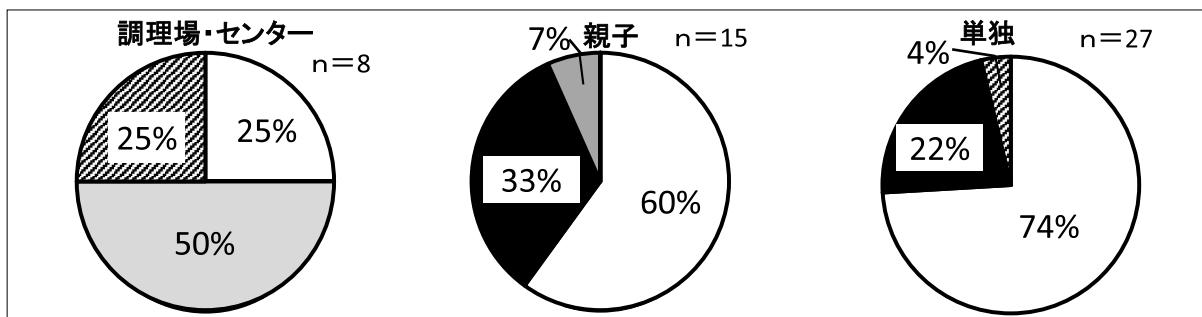
1 職務内容について最も適切に評価できる人

①所属校の校長
②所属校の教頭（副校長）
③所属する調理場長・センター長
④市町教育委員会で学校給食や食育関係を担当する部署の管理職
⑤教育事務所で学校給食や食育関係を担当する部署の管理職
⑥その他

★栄養教諭



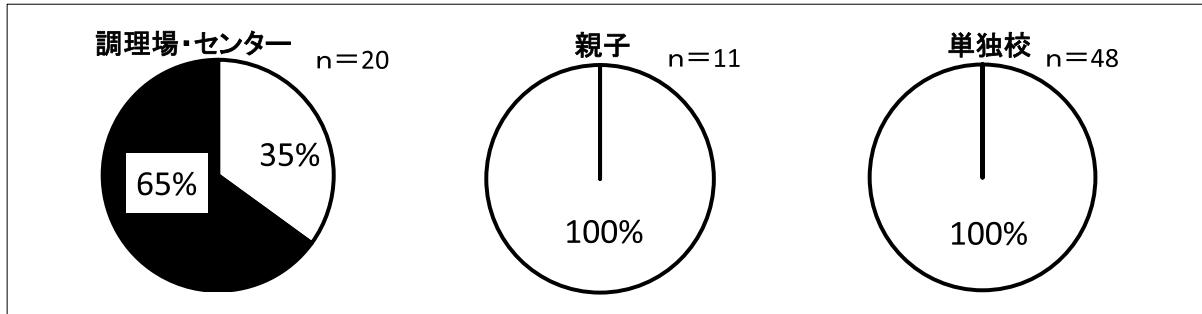
★学校栄養職員



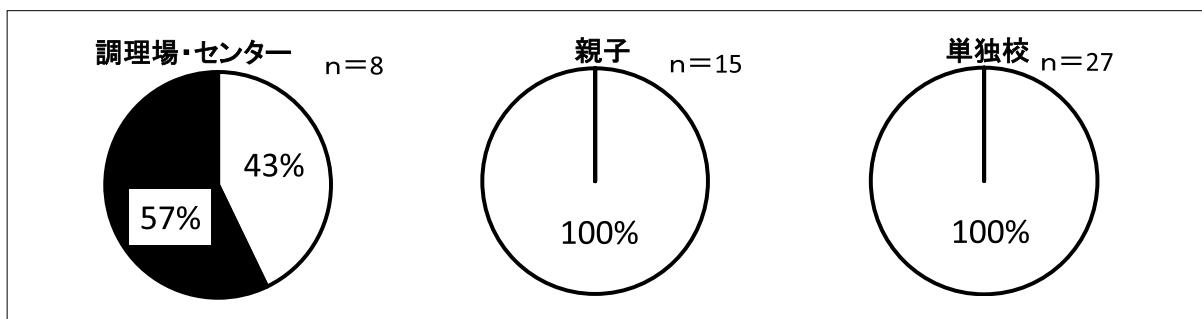
2 第1次評価者は誰だったか

①教頭（副校長）
②調理場長・センター長

★栄養教諭



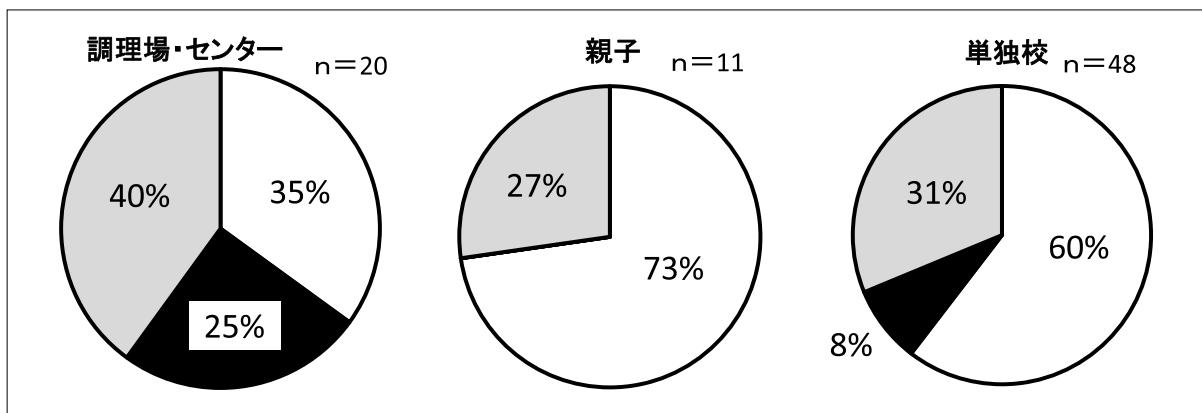
★学校栄養職員



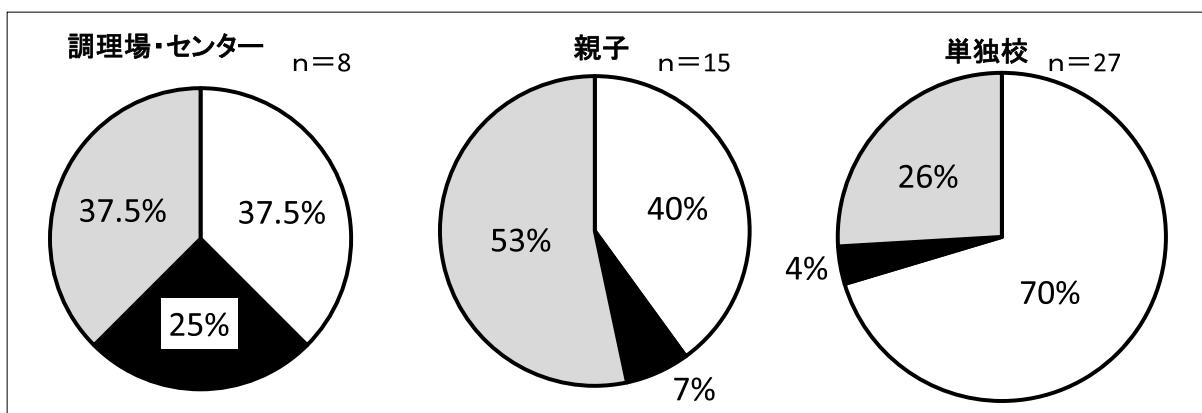
3 評価者は栄養教職員の職務の特殊性を理解して評価したと思うか

	①はい
	②いいえ
	③分からぬ

★栄養教諭



★学校栄養職員



考 察

アンケート結果から、親子・単独校勤務では校長や教頭（副校長）、調理場・センター勤務では調理場長・センター長と、いつも一緒に仕事をしている身近な人が職務内容について最も適切に評価できる人と感じている栄養教職員が多いことが分かった。しかし、本来、第1次評価者が場長等とされている調理場・センター勤務の中には、調理場長やセンター長でなく教頭（副校長）の人もいることが分かった。また、評価者は栄養教職員の特殊性を理解して評価したと全体の約6割が回答しているが、約1割はいいえと回答しており、特に、調理場・センター勤務の中に適正な評価ではないと感じている人が多くみられた。

私たち栄養教職員は、配置条件や職務内容が多種多様である。そのため、教職員評価制度の評価方法が、誰もが納得できること、さらに、より公正・公平な評価となるよう、評価者に対する研修の充実、評価者の職務の理解度を高めることが必要である。前述のとおり、調理場・センター勤務の中には、適正な評価ではないと感じている会員が多くいることから、特に、調理場長・センター長が職務に対する理解を深めることが重要である。